

外出自粛でもつながりは失わない

～『新しい「ツナガリ」プロジェクト』を開始（大阪府・阪南市社協）

阪南市社協では、外出自粛が長期化するなか、高齢者等が孤立しつながりを失わないよう、『新しい「ツナガリ」プロジェクト』を開始しました。

その第一弾として、4月末には、市の災害時要援護者登録「くらしの安心ダイヤル事業」に登録されている1416人（ひとり暮らし高齢者など）を対象に、「つながりニュースレター」を作成して送付しました。

ニュースレターには、家でできる体操の手引きやテイクアウトのお店リストなど役立つ情報が掲載されています。また、ニュースレターには往復はがきを同封しました。家にこもる生活の中で気持ちが落ち込んでいないか、体調の変化、外出頻度、などをお聞きし、自粛下の高齢者等の実態を把握します。「コロナ撃退ユニーク川柳」も募集し、家からでも“参加”できる企画もあります。ニュースレターの封入作業はコロナで減収している障がい者授産施設に依頼。皆さんが張り切って作業してくれました。

市内で高齢者宅の訪問や地域の清掃イベント等で活躍している「子ども福祉委員」からも、「お手紙で元気づけてあげたい！」などのアイデアも出ており、接触せずにつながり続ける新たなツナガリの形が生まれつつあります。



大阪府・阪南市社協 https://www.hannanshi-shakyo.jp/slug_info/3589/

宅食便で生活が苦しい子育て世帯を支援（宮崎県三股町社協）

三股町社会福祉協議会では、平成30年から、町内の社会福祉法人、ボランティア、社協等が連携し、生計が苦しい子育て世帯に無料で食品を届ける「みまたん宅食どうぞ便」をスタート。米や野菜、みそなど、農家から譲り受けたり企業等からの寄付により集まった食品をスマホやパソコンで登録した家庭に毎月1回、10食分を届け、利用者とは無料通信アプリLINE（ライン）でやりとりしています。窓口に行ったり書類を書いたりする必要はなく、スマートフォンから簡単に申し込みができるので、子育て中の年代の人たちにも利用しやすい仕組みになっています。

新型コロナウイルス感染拡大により、子ども食堂も活動がしづらい中、戸別配達が強みを生かし、食品を届けるボランティアの衛生管理を徹底して活動を続けています。学校の休校が始まった3月上旬は、

給食センターから譲り受けた野菜を配りました。

配達の際には、感染拡大による暮らしへの影響なども聞き取りしており、子どもの様子の変化や支援の必要性に早めに気づくことができます。



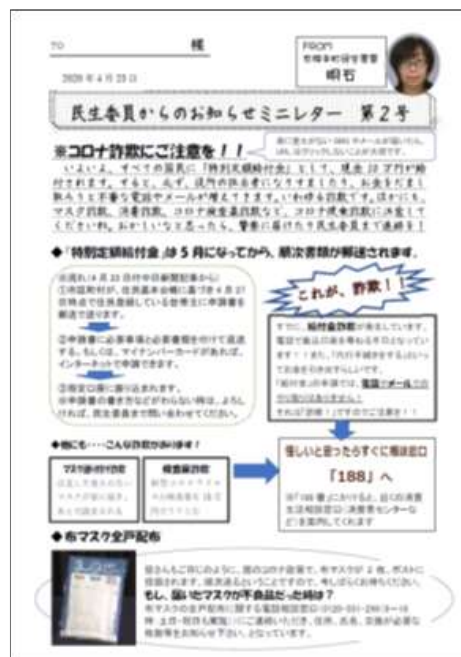
みまたん宅食どうぞ便 <https://mimata-douzo.com/index.html>

会話や声のトーンでその人の暮らしを推し量る 民生委員 明石雅世さん(愛知県名古屋市東区)

明石雅世さんは、名古屋市東区葵学区石神本町で民生委員を務めています。石神本町には、一人暮らしの65歳以上の方が20人、高齢者のみ世帯が3世帯住んでいますが、緊急事態宣言の発令から訪問を自粛するよう通達を受け、顔を合わせて話をする機会がなくなりました。

明石さんは、ポストに手紙を投函して訪問できない旨を伝えましたが、「それだけでは心配」と電話をかけて、心配ごとなどを聞き取りました。すると、一人暮らしの方からは、外出制限が出るなかでの工夫した暮らしを教えてもらったり、顔が見えなくても声のトーンでその人の暮らしを推し量ることができたと云います。

新型コロナウイルスに関する詐欺のニュースを耳にするたび、町内の対象者が被害に遭わないかという不安がある、と明石さん。そこで、ニュースレターを作成して、配布しています。「デザインを工夫し、多くの人の目に留まるように」と意気込みを語ってくれました。



“3密”を避けながら、つながりを絶やさない！ 地域福祉活動つながるポイント

～新型コロナウイルス感染拡大防止の取り組みを踏まえて～

発行日：令和2年5月12日
発行元：(社福) 広島県社会福祉協議会<地域福祉課>

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、広島県においても緊急事態宣言が発令されました(R2/4/18 制定)。本会が取りまとめた「新型コロナウイルス感染防止に係る地域福祉活動及び社協活動状況の調査で「市町行政から地域福祉活動の実施にかかる自粛要請、活動指針の文書等が出ている」と回答した市町社協は18社協(78%)でした(4/22 現在)。自分や家族、周囲の人の健康を守るため、これまで進めてきた地域福祉活動を中止・縮小せざるを得ない状況にあります。

一方、上記調査で「今後想定される生活課題や困りごと」を伺ったところ「ひとり暮らし高齢者等、話し相手や集う場が無くなり、認知症の症状が悪化する」「幅広い年齢層での虐待等の増加が懸念される」「つながりが薄くなり、孤立死が増えてくる」等が挙げられました。感染防止や健康管理に十分留意しながらも、いかに地域のつながりを絶やさない取り組みを進めるかが課題となっており、県内外でさまざまな取り組みが動き始めています。

この「つながるポイント」は、各地域の工夫したつながりづくりの実践を県内社協で共有し、地域の実情に応じて“3密”を避けながら孤立をできる限り防ぐことを目的に発行します。

※以下の「県内の取り組み」は本会が取りまとめた「新型コロナウイルス感染防止に係る地域福祉活動及び社協活動状況の調査結果(調査期間：令和2年4月16日～4月21日)」から引用しています。

県内の取り組み

●電話での見守り

- 直接対面を避けて、電話などで対象者の安否確認を実施している。

●距離を保った見守り

- 住宅の様子を外から見守りしている。
- 屋内に入らず、玄関先で対応している。
- 訪問員・利用者共にマスクの着用と、一定の距離(2m以上)をあけるようにしている。
- 地区の友愛訪問や給食配膳も、玄関やポストに置いて直接会わないことや、手作り弁当も会館や部屋に一堂に会して調理しないよう、業者注文に変更している。
- 気になる世帯への見守りを兼ねて、ウォーキングをしている。

●その他感染予防の工夫

- 訪問の前に対象者へ身体状況の電話確認をしている。
- 短時間の対応としている。
- マスク着用や除菌シートによる手指消毒を行っている。
- 帰宅後の手洗いをお願いしている。

見守り活動 ～工夫した取り組み～



江田島市のある地区の青空会議の場面

大阪府・豊中市社協

●電話の活用 <桜塚校区福祉会>

- 週1回の弁当配食サービスをやめ、緊急事態宣言が終わるまでは電話での安否確認に切り替えている。

(出展：2020/4/25 朝日新聞)

兵庫県・淡路市社協

●手紙・訪問カードでの見守り合い

- 手紙、お便り(ニュースレター)でつながり続ける活動がある。
- 訪問カードを作ってポストに投函し、声かけを併せて行っている。

●車の中からのあいさつ

- すれ違いの際にお互いに「手を振って」心を通わせている。

(出展：淡路市社協 HP)



サロン活動

～工夫した取り組み～

県内の取り組み

●外で活動

- サロン参加者でウォーキングを実施している。
- マスクを着用し、外(公園等)でできる活動(ラジオ体操、グラウンドゴルフ)を実施している。

●訪問や電話での安否確認等の活動

- 世話人が参加者にサロン中止の電話連絡をする際に、心身状態の確認も同時に実施している。
- 世話人がサロン参加者に対して安否確認の電話を行い、気になる方の家へは訪問をしている。
- サロン参加者を訪問し、手作りのマスクを配っている。

●家でできる介護予防運動の啓発

- サロン中止期間にも自宅で介護予防活動が行えるよう、参加者を訪問し、体操のチラシを配布している。

●その他感染予防の工夫

- 時間短縮等の対策を行っている。
- 開始前に検温してグラウンドゴルフを実施している。
- 会食を自粛し、水分補給時は紙コップを使用している。
- 飲み物は持参に変更している。



高齢者の皆さまへ
～新型コロナウイルス予防～元気でいるために～

新型コロナウイルスとは？
発熱、のどの痛み、咳が続く(1週間以上)、強い疲労(倦怠感)を感じるなどの症状がみられる。重症化すると呼吸困難や意識障害を引き起こす可能性がある。

うつらない、うつさないために
・手洗いをこまめに、正しい方法で行う。
・マスクを着用し、咳エチケット(咳やくしゃみをする際は、マスクを着用し、肘の内側など顔を隠す)を行う。
・密集・密着・密接を避け、人と人との距離を2メートル以上保つ。
・体調が悪いときは、無理な外出を避け、休む。

体力維持にも気を付けよう！
★できる運動を続けよう！
毎日の生活の中で、できる範囲で運動を続けよう。
・散歩、軽いジョギング、ストレッチ、ラジオ体操、ラジオ体操(第二種)など。
・室内でもできる運動(椅子を使った運動、踏み台を使った運動)など。
・お風呂に入る、お風呂に入る、お風呂に入る。

★栄養と睡眠をしっかりとらよう！
栄養バランスのとれた食事を摂り、十分な睡眠をとる。
・朝食、昼食、夕食をしっかりとる。
・お風呂に入る、お風呂に入る、お風呂に入る。

広島県地域包括ケア・高齢者支援課作成
介護予防啓発のためのチラシ

大阪府・豊中市社協

●「往復はがき」を出す取り組み <庄内南校区社協>

- 月1回ひとり暮らし高齢者対象のサロンの開催を中止。登録のある38人に近況を問う往復はがきを発送した。
- 返信がない人には、手分けして電話をしている。

●SNSの活用 <庄内南校区社協>

- SNSに慣れた「子育てサロン」の参加者とはLINEでつながることを検討中。

(出展：2020/4/25 朝日新聞)

東京ボランティア・市民活動センター

●居場所活動が縮小し、工夫していること

- 登録者のみ予約制で実施、人数制限、Web会議ツールを使用して実施等。

●居場所活動が縮小し、新たに取り組んでいること

- 通信を発行/Webサイトでの情報発信/弁当やお菓子、マスク、物資などを配布/訪問事業として対応/SNSでのつながりづくり等。

(出展：「居場所団体向け 新型コロナウイルス対応に関する緊急アンケート調査結果」2020/4/23)

NPO法人すずの会(神奈川県川崎市)

●休止の拠点で、タケノコご飯のおすそわけ

- 世話人が作ったタケノコご飯を、散歩がてら、利用者に拠点まで取りに来てもらう。
- 人が密集しないよう、取りに来てもらう時間を細分化して伝えた。
- 取りに来てもらう日は、1週間のうち、1番天気の良い日を選んだ。

(出展：「つながりを切らない」情報・交流ネットワーク『つながる通信』第3号)

☆サロン活動・見守り活動実践のつながるポイント☆

◇場を屋外へ移す、規模や時間を縮小する、距離をとる等の工夫を行い、少しでも顔を合わせる機会をつくることから、お互いの安心感につながっている。

◇電話、手紙等の取り組みから「気にかけている」というメッセージを伝え合う。

◇状況や相手に合わせた方法での見守り合いを行い、つながりを切らない、孤立させない。

◇活動前に検温や健康チェックを行うこと、マスク着用や手洗い等を励行し、事後も手洗い等を徹底。

県内の取り組み

●オール広島ささえあいネット事業の状況

※オール広島ささえあいネット事業：暮らしの中のちょっとした困りごとのある人と、自分ができることの中で手伝いができる人をつなぎ、支え合い活動をすすめる有償の仕組み。

・事業を実施している 14 社協中、13 社協（93%）が活動を継続して実施している。

→内訳：「感染に留意して通常通り実施している」5 社協（36%）

：「必要最低限の支援に限定して実施している」8 社協（57%）

・ルールを決めて実施

→話し相手の活動は、電話で実施している。

→ゴミ出し支援など「支援員の外出に便乗でき」「実施しない場合の生活の影響が大」「接触時間がごく短時間」

「接触が少ない・距離の保持が可能」な依頼に対応している。

・感染予防 →活動者には必ずマスクの着用・手指消毒・体調の確認を実施している。

●坂町社協

「被災者の“新たな生活”を応援する引っ越し支援

～ボランティアや地域支え合いセンターとの協働による災害公営住宅への入居支援～

・平成 30 年 7 月豪雨災害で被災した坂町では、住宅を失い自力での再建が難しい被災者のための災害公営住宅への入居が令和 2 年 4 月から始まった。町内 5 か所に全 85 戸の住宅が建てられ、仮設住宅等から順次入居手続きが進められているが、年齢や経済的な理由などで自身での引っ越しが難しい被災者もあり、坂町社協ボランティアセンターには 40 件を超える相談が寄せられた。

・ボランティアセンターの呼びかけに応じ、登録ボランティアが引っ越しを手伝った。照明の設置が難しいなどのちょっとした困りごとについても、ボランティアの協力を得て、心身の疲労や不安を抱える気持ちを汲み取りながら支援が進められた。

・被災者の見守り・巡回訪問などを通じて生活再建を支援している坂町地域支え合いセンターと、世帯の状況を月 1 回の被災者支援連絡会議等で共有し、引っ越しの準備や荷物の整理が難しい被災者を訪問してケアするなど、関係機関とも連携しながら支援を進めている。



活動のため町社協が購入した軽トラックが活躍



慣れた様子で荷物を運ぶボランティア



電灯の取り付けなどきめ細やかに対応

※坂町社協におけるボランティア活動時の新型コロナウイルス感染拡大防止対策

引っ越し支援に関して新型コロナウイルスの感染予防対策として、活動者は所定の問診票を記入し、体調のチェックを受ける等の対応を行い、活動時のオリエンテーションでその他注意事項を丁寧に説明するなど、最善の注意を払って実施している。

☆生活支援活動実践のつながるポイント☆

◇今必要な活動は十分注意して行い、当事者や被災者の暮らしを守る。

◇ボランティアだけでなく、専門職が連携し、活動を支える。

生活支援活動

～工夫した取り組み～

県内の取り組み

<各社協 HP 等より>

- 三原市社協 【募集】 布マスクを製作してもらえるボランティアと材料 / 【配布先】 各福祉施設職員等
- 福山市社協 【募集】 マスク（手作り、既製品）、マスク等製作の材料、寄付金
- 府中市社協 【募集】 布マスク製作に協力してもらえる団体・個人 / 【配布先】 マスクの確保が困難な現場
- 三次市社協 【募集】 手作りマスク（大人用、子ども用の布マスク）
- 江田島市社協 【募集】 布マスク、不織布マスク、消毒用アルコール物品等 / 【配布先】 必要とする病院、法人や個人



マスクを製作してくれる人を募集する
三原市社協作成チラシ



マスク等を募集する
江田島市社協作成チラシ



府中市社協に設置された
「マスクバンク受付窓口」

大阪府・阪南市社協

●「文通マッチング」

・はがきを支給し、文通のコーディネートを行う。地域住民の双方向の「つながり」「やりがい」を実感することで生活に張りを持たせる目的がある。

※大阪府「外出自粛高齢者・障がい者等見守り支援事業交付金」を活用。

（出展：阪南市社協作成「新しい『ツナガリ』プロジェクト展開イメージ」）



お元気でですか
ありがとうございます

☆コーディネート実践のつながるポイント☆

◇社協の日頃のつながりを活かし、“困っている人のために何かしたい”という“お互いさま”の気持ちをつなぐ。

◇今できることから、やりがい・役割づくりを進める。

あなたのまちの「つながりを絶やさない！地域福祉活動の工夫

～新型コロナウイルス感染症対応～」を募集します！

⇒お教えいただいた取り組み事例をこの「地域福祉活動つながるポイント」で紹介させていただきます。工夫した取り組み、気持ちを分かち合い、県内社協、住民、関係者等と共に孤立させない活動を進めていきましょう！

連絡先：(社福) 広島県社会福祉協議会 地域福祉課

電話 (082) 254-3414, FAX (082) 256-2228, Mail chiiki@hiroshima-fukushi.net

“3密”を避けながら、つながりを絶やささない！

地域福祉活動つながるポイント

～新型コロナウイルス感染拡大防止の取り組みを踏まえて～

No.2

発行日：令和2年5月20日
発行元：(社福) 広島県社会福祉協議会<地域福祉課>

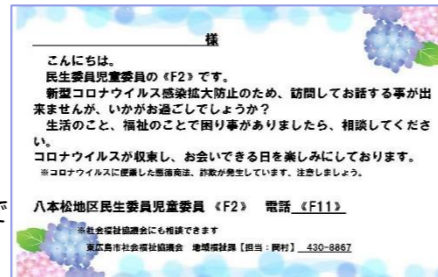
新型コロナウイルス感染拡大防止のための広島県における緊急事態宣言が解除されました(R2/5/14)が、引き続き感染防止に留意した「つながりを絶やささない」取り組みが求められます。

この「つながるポイント」では、「3密」を避けながら孤立を防ぐ」取り組みを進める皆さまの参考にしていただくため、県内各地域で創意工夫した地域福祉活動の実践を紹介し、県域における取り組みを広げていきます。

●旧市内：民生委員と協働して進める“見守りカード”

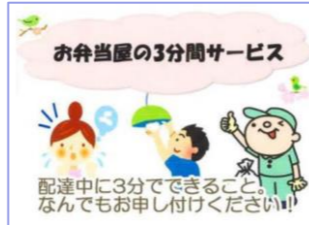
- 昨年12月に民生委員の改選があり、活動自粛の中で、新任民生委員が「見守り対象者と十分な関係構築ができていないから、電話をかけることも難しい」という悩みがあった。
- そこで、社協職員と民児協会長が相談し、右の見守りカードを作成した。
- 民児協会長より「自分たちは民生委員であると同時に対象者の近隣住民でもあるので、相談しにくいこともあるかもしれない」との意見もあり、社協担当者の名前と連絡先も加え、旧市内の見守り対象者に民生委員が配布している。

東広島市社協



●八本松中央地区社協：配食業者と連携した安否確認&3分間サービス

- 地区社協役員と民生委員が3月中旬から地域の困りごとについて協議した中で、「基礎疾患がある人は特に買い物に出るのが怖くなっている」との声があったことから、「配食の情報を集めようと思っているのだが」と社協に相談があり、社協から配食業者の情報を提供した。
- この取り組みは、町内の焼肉屋で、配食を始めようとしている人から「利用する高齢者等に配達業者が何かサービスができないか」との声があったことをきっかけに始まった。そこで、参画してくれる配食業者に依頼し、弁当を届けることに併せて安否確認と短時間(3分間)のできるサービス(服薬の声かけ、電球交換、ゴミ捨て等)を行う取り組みが始まった。また、この取り組みでは、利用者の異変を感じた際に、民生委員や自治会等に伝える仕組みになっている。



●安芸津町・風早地区社協：子ども食堂『ハーモニー』の弁当配布

- 「ハーモニー」の活動を始めて約2年。活動休止前は毎月2回開催し、小学生や保護者、地域住民が20~30人参加していた。
- 休止中も「せっかくできたつながりを大切にしたい」と、いつも来てくれる子どもたちにお弁当を作り届けた。お母さんたちから「うれしい!」ととても好評だった。学校が休校で家事に追われるお母さんたちのちょっとした息抜きになった様子。



●「あったか笑顔のまちづくり通信・増刊号」の配布

- 「サロンの参加者や気になる人に配布してください」と生活支援コーディネーターが、サロン世話人や地区社協会長等一人ひとりに右の通信を渡し、丁寧をお願いをしている。
- 訪問した際「地域の困りごと」の聞き取りをしており、「今後活動自粛が解除されたとしても、外に行くのが億劫になっている80代高齢者等もいる」「電話をしたら『今日初めてしゃべったよ』と言われる」等の心配な声があり、改めて見守りの取り組みの必要性を確認した。



西条南郷田地区「マスク配布の取り組み」

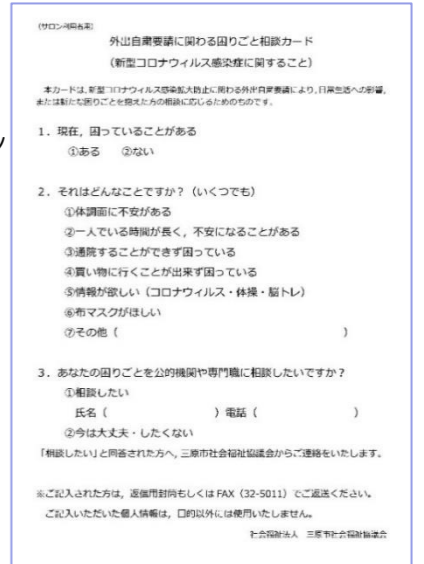
三原市社協

●「電話サロン」助成の取り組み

- 社協は市と調整を図り、市のサロン助成金を活用して「電話サロン」の取り組みを4月から開始した。世話人を対象に、サロン利用者への電話通話料を助成するもので、1件90円と設定。会って集えない状況でも、お互いに“耳なじみのあるあの人の声”で、安心感を共有できるよう進めている。

●「困りごと相談カード」によるニーズ把握の実施

- サロン代表者及び見守り協力員宛に、右の「困りごと相談カード」を、返信用封筒を付け郵送する。様式は、①サロン代表者・見守り協力員記入用、②サロン利用者等(気がかりな人/サロン代表者等からポストできる人)記入用があり、困っている人や困りごとの内容、相談の希望等を記入してもらう。
- 「困っている人を一人でも把握し、何とかしたい」という思いを込め、“気にかけています”を届けるツールとしても活用する。



●エリア担当社協職員によるサロン代表者へのヒアリングの実施

- 205か所のサロン代表者一人ひとりに、担当職員から電話をかけ、①現在の地域状況、②上記「電話サロン」助成活用の促し、③「困りごと相談カード」活用をお願いを伝えている。
- サロン代表者からヒアリングした中には「地域には、感染を恐れ訪問の拒否や、郵便すら拒否をする人もおり、見守りが難しい」との声もあり、今できる見守り方法を模索している。

●地域包括支援センターとの共有・連携

- これまで地域支援を目的として、協議体運営や困難ケースの共有等を、市内の各地域包括支援センター(5か所)と月1回実施していたが、この度、連携会議を書面対応で実施した。地域包括支援センターからは「虐待ケース等が見えていない。どうニーズを把握したら良いかわからない」等の重要な投げかけがあった。
- 現在取り組んでいる「困りごと相談カード」やヒアリングから把握されるニーズの解決に向けた連携を、地域包括支援センターと確認し合った。



これまでの包括との会議場面(写真は令和元年12月時点)

●移動スーパーと連携した「布マスクお届け隊」と社会福祉法人への配布

- 社協が募集を呼びかけていた手作りマスクが、短期間だったにも関わらず、約1,000枚も集まった。
- 5/14より「移動スーパーとくし丸」の協力を得て、マスクを買いに行くことが難しい住民へ届ける取り組みをスタートさせた。マスクを受け取った人からは「マスクが買えず、どうしようかと思っていた」「有難い。こんな時だからこそ、気持ちが明るくなった」と嬉しい声があった。
- また、市内社会福祉法人へも手作りマスクを届け、マスクを通した社会福祉法人への応援につながっている。



☆つながるポイント☆

◇感染防止に留意しながら、局内担当者や住民、関係機関との話し合いを行い、ネットワークを活かした取り組みを進める。

あなたのまちの「つながりを絶やささない!地域福祉活動の工夫 ~新型コロナウイルス感染症対応~」を募集します!

⇒お教えいただいた取り組み事例をこの「地域福祉活動つながるポイント」で紹介させていただきます。工夫した取り組み、気持ちを分かち合い、県内社協、住民、関係者等と共に孤立させない活動を進めて行きましょう!

連絡先：(社福) 広島県社会福祉協議会 地域福祉課
電話 (082) 254-3414, FAX (082) 256-2228, Mail chiiki@hiroshima-fukushi.net